

経理・労務代行選び20項目チェックシート

作成者：

作成日：

「価格」だけで選ぶ前に、必ず確認してください。

経理・労務代行は、誰に任せるかによって、「税務リスク」「労務トラブル」「資金繰り」「銀行評価」「経営判断の精度」まで大きく変わります。近年では、「安価な入力代行サービス」や「無資格業者によるバックオフィス代行」も増えています。しかし、本当に重要なのは、「何をしてくれるか」ではなく、「誰が責任を持てるか」です。

経理・労務代行選びの際は、このチェックシートで「本当に安心して任せられる経理・労務代行」か確認しましょう。

	チェック項目	ポイント	テントウワン		
1	「法的責任の放棄」がありますか？	<p>「税務判断は対応不可」「申告は別途税理士へ」などとして、責任範囲を過度に限定していませんか？</p> <p>安価な経理代行サービスの中には、対応範囲を限定することで価格を抑えているケースもあります。しかし、経営者が本当に必要なのは、「入力作業」ではなく、「経営を守る会計」です。</p>	○		
2	「相談」ができますか？	<p>「これは経費になりますか？」という質問に、その場で回答できますか？</p> <p>このような税務相談は、税理士資格が必要です。つまり、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答えれば違法 ・答えなければ不便 <p>という問題が起こります。最初から「相談できる体制」かを確認しましょう。</p>	○		
3	給与計算に社会保険労務士が関与していますか？	<p>社会保険・労働保険・法改正まで対応できますか？</p> <p>給与計算は単なる計算業務ではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残業代 ・社会保険等級 ・労働法改正 ・入退社手続き <p>など、労務知識が不可欠です。社会保険・労働保険手続きや労務判断を伴う給与計算については、社会保険労務士の関与がない場合、将来のトラブルにつながる可能性があります。</p>	○		
4	年末調整まで丸投げできますか？	<p>給与計算だけで終わっていませんか？</p> <p>「年末調整はお客様をお願いします」というケースは少なくありません。本当の意味での「丸投げ」とは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給与計算 ・年末調整 ・法定調書 <p>まで一貫対応できることです。</p>	○		
5	税務調査に立ち会えますか？	<p>税務調査時に、誰が会社を守りますか？</p> <p>税理士資格のない業者は、税務調査で税務代理を行うことはできません。つまり、帳簿を最も理解しているはずの担当者が、肝心な時に対応できないケースがあります。「作る人」と「守る人」が同じかどうかは重要です。</p>	○		
6	窓口は一本化されていますか？	<p>経理代行・税理士・社会保険労務士が分断されていませんか？</p> <p>窓口が分かれていると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ説明を何度もする ・認識ズレが起きる ・責任所在が曖昧になる <p>という「情報の伝言ゲーム」が発生します。経営者が「調整役」になる状態は、見えない大きなコストです。</p>	○		
7	「提携税理士任せ」ではなく、自社内で責任ある確認体制がありますか？	<p>資格者は、実務に直接関与していますか？</p> <p>「提携税理士あり」と書かれていても、実際には実務へ関与していないケースがあります。重要なのは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が設計し ・誰が確認し ・誰が責任を持つか <p>です。</p>	○		
8	属人化しない体制がありますか？	<p>担当者変更時も品質は維持されますか？</p> <p>担当者依存の運用では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎ漏れ ・品質低下 ・業務停滞 <p>が発生します。少なくとも、有資格者監督下でのチーム体制があるかを確認しましょう。</p>	○		
9	解約・移行サポートがありますか？	<p>「今の業者から切り替えたい」に対応できますか？</p> <p>経理代行は、一度依頼すると抜け出しづらいサービスです。だからこそ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ移行 ・クラウド再設計 ・運用整理 <p>まで支援できる体制が重要です。</p>	○		
10	「安さ」だけでなく、利益・資金繰りへの貢献がありますか？	<p>経理が「未来の利益」につながっていますか？</p> <p>安価な業者は、入力効率しか考えないことがあります。一方、有資格者は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節税 ・融資対策 ・資金繰り ・決算設計 <p>まで見据えます。「安い」より、「利益を残せるか」が重要です。</p>	○		

	チェック項目	ポイント	テントウワン		
11	銀行融資を意識した帳簿ですか？	<p>銀行が信頼できる決算書になっていますか？</p> <p>金融機関は、帳簿の整合性を見ています。誤った処理や不自然な数字は、融資評価へ影響することがあります。経理は「資金調達力」にも直結します。</p>	○		
12	高度な税務判断ができますか？	<p>消費税・交際費・福利厚生費の判断は適切ですか？</p> <p>税務判断は、単なる勘定科目選択ではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費税区分 ・損金算入 ・インボイス ・税務調査リスク <p>など、高度な判断が必要です。</p>	○		
13	経営相談までできますか？	<p>「入力担当者」で終わっていませんか？</p> <p>本当に必要なのは、「作業員」ではなく、「相談できるパートナー」です。経営判断に関する相談ができるかは、非常に重要です。</p>	○		
14	クラウド会計の設計まで対応できますか？	<p>導入だけでなく、運用設計までできますか？</p> <p>クラウド会計は、設定を誤ると誤った仕訳が自動生成されることがあります。重要なのは、「ツール」ではなく、「正しい設計」です。</p>	○		
15	法改正対応に強いですか？	<p>インボイス・電帳法などへ迅速対応できますか？</p> <p>法改正のたびに混乱する会社は少なくありません。重要なのは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法律の背景理解 ・業務フロー変更 ・実務反映 <p>まで対応できるかです。</p>	○		
16	許認可・行政手続きまで連携できますか？	<p>建設業など、許認可の維持に対応できますか？</p> <p>業種によっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・許認可 ・経営事項審査 ・行政提出資料 <p>と経理データが連動します。多資格連携できるかは重要です。</p>	○		
17	実務に強い専門家がいますか？	<p>現場理解のある専門家が対応していますか？</p> <p>重要なのは、理論だけでなく、「実務を回せるか」です。現場を理解した専門家体制かを確認しましょう。</p>	○		
18	他社からの乗り換え実績がありますか？	<p>「失敗後の相談」に対応していますか？</p> <p>実際には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安さで選んだ ・相談できなかった ・品質が低かった <p>という理由で乗り換える企業も少なくありません。乗り換え支援の実績は、信頼性を判断する材料になります。</p>	○		
19	責任範囲は明確ですか？	<p>「どこまで責任を持つか」が明文化されていますか？</p> <p>契約前に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応範囲 ・免責範囲 ・誰が責任を持つか <p>を確認しましょう。曖昧なまま契約すると、「それは対象外です」が後から発生します。</p>	○		
20	最終的に「安心」を提供できていますか？	<p>価格だけでなく、「未来」を任せられますか？</p> <p>経理・労務代行選びは、単なる外注先選びではありません。会社の数字・組織・未来を支える「経営基盤」を、誰に任せるかという問題です。目先の安さだけで選ぶと、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税務リスク ・労務トラブル ・情報分断 ・判断ミス <p>という「見えないコスト」を抱えることがあります。</p> <p>だからこそ最後は、「この会社なら、安心して任せられるか」という視点で判断することが重要です。</p>	○		
	総合評価／メモ				